

地域とかかわる力を育てる総合的な学習の時間の研究

- 第3学年単元「若楠やさしさキャラバン隊出発!」を通して -

佐賀市立若楠小学校 教諭 副島 泰臣

要 旨

本研究では、総合的な学習の時間で地域とかかわる力を育てるために3つの手立てを取り入れた。具体的には、相手のことを考えて計画を吟味する場、一人一人が対象と直接かかわる場、活動を振り返って互いのよさを認め合わせる場である。子どもたちはボランティア・ティーチャーとのかかわりを通して、相手の生き方に学んだり、相手の幼稚園生や、幼児たちとのかかわり方の具体的なイメージをもつことができたりした。一人一人の子どもは、直接かかわることで相手意識をもつことの大切さが分かり、振り返る中で人とかかわるよさを感じ取り、地域とかかわる力をはぐくむことができた。

<キーワード> 総合的な学習の時間 地域 人とかかわり 生き方

1 主題設定の理由

総合的な学習の時間は、生活の中で見いだした疑問や課題を、切実性をもって自分なりに追究し、その過程の中で得られていく学びを通して自らの生き方を考えていく学習である。子どもが生活の中でもつ疑問や課題を見いだすのは、地域であったり、自分とかかわる様々なものであったり、人であったりする。地域のある対象に直接かかわることで気付きや疑問が生じ、繰り返しかかわる中で地域に働き掛けたいという願いが生まれ、分きたい知りたいといった追究する課題へと高まっていくと考える。その過程を通して、本質に触れたり、現実の壁にぶつかったりしながらたくさんの学びを得ることができるであろう。

本学級の子どもたちは、とても活動的である。しかし、生活範囲の中では友達以外に出会う人は限られており、地域の人の様々な生き方に触れるようなきっかけは少ない。また、気付きや発見を自らの課題として認識したり、地域に働き掛けたりするような学びの経験が少ないと思われる。

本研究では、問題解決をしていく中でかかわる力に焦点を当て、相手のことを考えて計画を吟味する場、子ども一人一人が直接対象にかかわる場、友達のよさを互いに振り返る場の3つの手立てを設定する。その各場での問題解決を図る過程において、様々な人とかかわりのよさを感じたり、それらの人の生き方に触れたりする中で、子ども一人一人が自己の生き方を考えることができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

自らの思いや願いの実現に向けた、地域の人々に働き掛ける活動を通して、子どもたち一人一人の地域にかかわる力を高めていく指導の在り方を探る。

3 研究の仮説

地域の中で自らの思いや願いの実現を図っていく場において、次のような手立てを取れば、子どもたちが人に積極的に働き掛けることができ、地域にかかわる力を高めていくことができるであろう。

相手のことを考えて、計画を吟味する場を設ける。

一人一人が対象と直接かかわる場を設ける。

活動を振り返って互いのよさを認め合わせる場を設ける。

4 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 人やものを通して地域とかかわる力を育てる内容と、方法の明確化
- イ 仮説を位置付けた問題解決学習の進め方の検討
- ウ 検証授業「若楠やさしさキャラバン隊出発！」(第3学年)での研究の仮説の検証

(2) 研究の方法

- ア 文献等を用い、人とかかわりのよさについて研究する。
- イ 仮説を設け、実際の授業を行いその有効性を明らかにする。
- ウ 検証授業を通して仮説の有効性を確かめ、成果と今後の課題を明らかにする。

5 研究の実際

(1) かかわる力と手立てとなる場の位置付け

環境との相互作用ということを、高浦勝義は次のように述べている。⁽¹⁾

子ども(人間)は「環境との相互作用」存在、すなわち、ある欲求なり必要といった内的条件に駆られて人的・動的環境に“働きかけ”，そしてその結果として環境から何かを“受ける”(学ぶ)といった極めて主体的で目的的な活動存在であると考えることができる。この活動は、別には“問題解決活動”と表現してもよいであろう。すなわち、子ども(人間)は、ある欲求なり必要といった問題の解決を求めて環境に働きかけ、その結果として環境から働きかけながらやがてその解決に至るといった問題解決活動の連続的展開を通して絶えず成長発達を遂げている存在であると考えることができる。

人的・動的環境とは、子どもの周りの地域ととらえることができる。また、環境との相互作用とは、子どもが「地域の人、もの、こと」にかかわりその結果として学ぶ姿ととらえたい。

総合的な学習の時間では、地域が子どものかかわる対象となる。その中で、自分の思いを伝えたり人の生き方に触れたりすることで、たくさんのことを学んでいく。そこで、本研究では、総合的な学習の時間でかかわる力を育てるために3つの手立てを取り入れた(図1参照)。一人一人の子どもの思いや願いが高まり、それが具体的な活動となって相手のことを考えて、計画を吟味する場(手立て1)。次に、一人一人が思いや願いを実現しようとするために対象と直接かかわる場(手立て2)。活動を振り返って互いのよさを認め合わせたり、かかわるよさに気付いたりする場(手立て3)、の3つである。一連の学習を通すことで子どもは、対象に自ら働き掛ける力を身に付けることができ、かかわるよさを感じたり、相手の生き方に学んだりしながら、地域とかかわる力をはぐくむことができる。

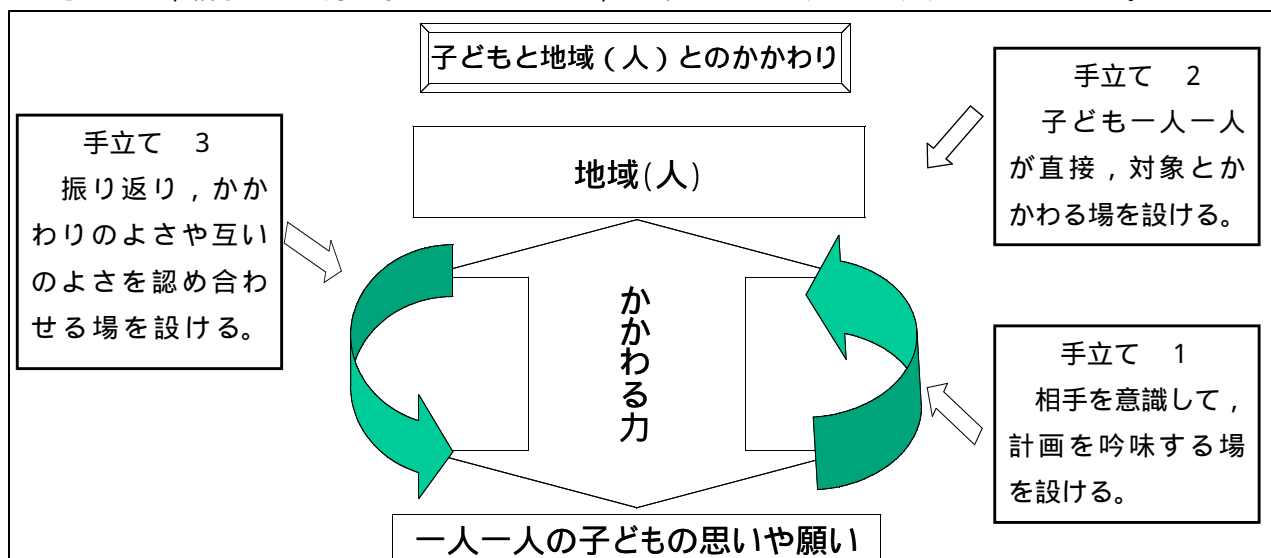


図1 かかわる力を育てるための手立ての位置付け

(2) 検証授業の実践

ア 単元の概要

本単元は、1学期から行っている「若楠のじまんをみつけよう」という学習をきっかけに生じた課題を、更に追究していこうとするものである。子どもたちが町探検を通して気付いたことは、自然のよさ、町の暮らし、人のやさしさであった。その中で、人のやさしさを問題にした子どもたちは、「ボランティア若楠」の方との出会いから、町の人のために思いや願いをもって人にかかわるよさを見いだす人の生き方に触れることができた。このことをきっかけに、自分たちにもできることを考え地域にかかわることを実感として生まれさせるために、人とのかかわりを中心とした単元「若楠やさしさキャラバン隊出発！」を計画した。そこでは、子ども一人一人が自分の思いや願いを幼い子にかかわる中でそのかかわりのよさを見いだしていく。

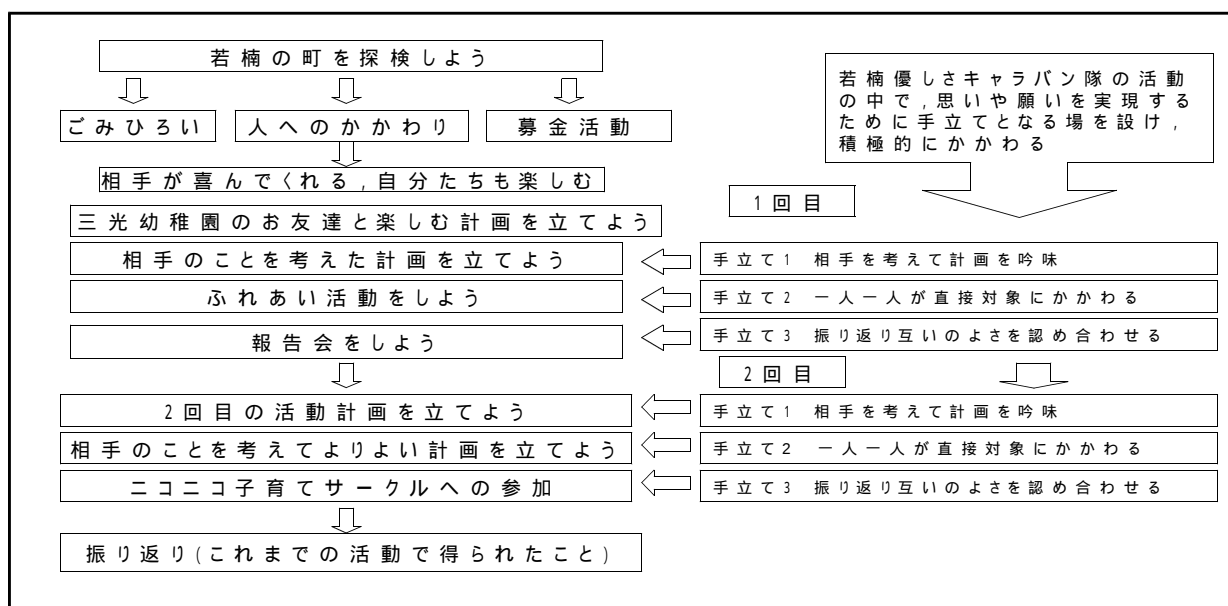


図2 単元の流れと手立ての位置付け

イ 授業の実践

本単元では、課題意識を喚起するために、まず人との出会いを設定した。子どもたちが町探検を通して見いだした「やさしい町にするためにはどうすればよいのか」という課題に対して、具体的なアドバイスを与えていただく方（地域でのボランティア活動を行っている方、お話会で活動されている方）を教室に招き、地域への思いを話していただいた。地域の中での生き方に共感した子どもたちは、相手を意識して活動を計画すれば、自分たちにも相手にやさしさを届けることができるのではと思い始め、ボランティア・ティーチャー（以下V Tと表記する）の方にアドバイスを頂きながら地域の中でのかかわり方を考え、幼稚園訪問という活動を計画し準備を始めた。

1回目の活動として、幼稚園生との触れ合いを考えた活動をV Tの方（お話会）と相談したり、練習したりして作り上げていった。教えてもらった紙芝居を中心に活動のプログラムを自分たちなりに計画し、実際に幼稚園に出掛け、一人一人が幼稚園生と触れ合い、楽しい時間を過ごすことができた。多くの子どもたちが遊びやプレゼント渡しなどでかかわることにより満足感を味わうことができた。振り返りの場では、うまくできたところとそうではなかったところを互いに認め合いながら発表した。その後、もう一度計画を吟味して、キャラバン隊をよりよいものにしたいという思いや願いをもち、2回目の活動へと学習活動が進展していった。以上のような流れを図2に示している。ここでは、2回目の活動を行った子どもたちの学習活動について以下に述べる。

ウ 手立てを位置付けた検証授業の実際

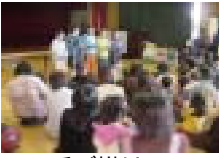
(ア) 【手立て1】(相手を意識して、計画を吟味する場を設定する)

○ 本時の目標 (17/28) プログラムの構成を、相手意識の視点を基に吟味し、活動の具体的イメージをもつことができる。															
学習活動と子どもの意識	教師の働き掛けと子どもの反応														
1 1回目の活動を想起し、うまくできたところとできなかったところを確認する。 幼稚園訪問は、ドキドキしたけど、楽しかったなあ！ でも、計画したようには、うまくいかないところがあったぞ！ 2 前の時間に作った子どもたちの案を確認する。 子どもたちが提案した案 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black;">リコーダー演奏</td><td style="text-align: right;">3分</td></tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black;">まめまき、くじびき</td><td style="text-align: right;">5分</td></tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black;">影遊び、手遊び</td><td style="text-align: right;">5分</td></tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black;">汽車ごっこ</td><td style="text-align: right;">3分</td></tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black;">紙芝居</td><td style="text-align: right;">5分</td></tr> <tr> <td>ペープサート、パネルシアター</td><td style="text-align: right;">7分</td></tr> <tr> <td>踊り</td><td style="text-align: right;">2分</td></tr> </table> 変更したプログラム 1. ペープサートで紹介 2. リコーダー演奏 3. 手遊びから大型絵本 4. 手遊びからパネルシアター 5. 遊ぼうコーナー(くじ、汽車遊び、影絵、まめまき) 6. みんなで踊ろう	リコーダー演奏	3分	まめまき、くじびき	5分	影遊び、手遊び	5分	汽車ごっこ	3分	紙芝居	5分	ペープサート、パネルシアター	7分	踊り	2分	1 回目の幼稚園訪問を経験した子どもたちはできた喜びと、幼稚園児を楽しませることの難しさも感じていた。その両面から2回目はこうするぞ、こんなことをしたいという期待が膨らんでいた。このことを基に、2回目の計画をより吟味する視点(相手意識、時間、かかわり)を指示し話し合わせた。  思いを伝える みんなが幼稚園の訪問でできたことは、とても素晴らしいことだと思うよ。自分が相手のことを考えて人に思いを伝えることだね。今度、子育てサークルに参加してみませんかみんなと楽しいだろうな！ 【相手意識をもたせるために行った話合い】 T: 小さいお友達だから、ずっと座ってばかりとか、ずっと動いてばかりができないんだよね。どうかな？ C: 交代交代にするのかな？ C: じゃ、動くものとそうじゃないものに分けて考えて見ればいいと思います！ T: 君たちが考えてくれたプログラムを見るとそれが分けられるよね！ T: もう一つ、時間が足りなくなると思うよ！ C: だから、ペープサートとパネルシアターを一緒にしたんだよ。 T: でも両方も、せっかくするんだから、もっと時間が必要だと思うけどなあ・・・。 C: 一緒にするといいよ！ T: この表を見てごらん！これで活動の仲間分けをすることができるよ！ T: そうだね、するとこの影遊びと汽車ごっこがいっしょかな！ C: まめまきもだよ。 T: そうだね、じゃあ、これを一つのものにできないかなあ？ C: じゃあ、これも一緒にすればいいよ！ C: すると、影遊びと、汽車ごっこ、豆まきと一緒にできるよ！ これが〇〇分。という機械的な決め方ではなく、相手(幼児)のことを考えながら、一人一人が相手とかかわる遊びをまとめることができた。また、場所の工夫としてコーナーにしたことで時間も最初から比べると3倍の長さを確保した。
リコーダー演奏	3分														
まめまき、くじびき	5分														
影遊び、手遊び	5分														
汽車ごっこ	3分														
紙芝居	5分														
ペープサート、パネルシアター	7分														
踊り	2分														
【考察】 この後、手遊びや紙芝居など、相手が座って見るものが中心になるものについて、合わせたリ、繰り返して出番を多くしたりすることが、話合いで決まった。本時の目標に、相手意識をもつという視点を入れたことで、プログラムの見直しができ、より意欲が高まったと言える。															

(イ) 【手立て2】(子どもの思いや願いを実現するために一人一人が直接対象にかかわる場を設定する)

○ 本時の目標 (26,27/28)

若楠ニコニコ子育てサークルと一緒に活動する中で、幼児や母親との交流を通して、自分の思いや願いを互いに協力しながら実現することができる。

学習活動と子どもの意識	教師の働き掛けと子どもの反応
1 一人一人のめあてを確かめておく。 C₁の活動のめあては、ほめてあげる、笑顔で話し掛ける、声の大きさを調節する。	気持ちをほぐすために声を掛け、子どもたちの活動を支援していく。  C₁は、目の前に座る幼児を見ながら、大きな声で、「手をひざに、その手はそのままにしておいてね!」と呼び掛けることができた。(写真2)
2 キャラバン隊の活動を始める。 1.ペープサートで紹介 2.リコーダー演奏 3.手遊び、大型絵本 4.手遊び、パネルシアター 5.遊ぼうコーナー 6.みんなで踊ろう	かかわる場  C₁は、幼児が手に持ったまめ(新聞紙の玉)を手渡し、一生懸命に「上手だね、うまいよ!あたった!」など声を掛けて、励まし続けることができていた。(写真3) C₁の感想:幼稚園ほうものときよりもだいぶできたと思います。今日の赤ちゃんたちのほうがまだまだ小さいので赤ちゃんたちがなかなかいかに気を使おうとしたけれど、なぜか自然に「やってみる?」とか「おいで!」などやさしく話していました。とてもはり切っていこうみたいな気分になりました!
【考察】 子どもたちが吟味した計画が有効に生かされ、幼児や母親と意欲的にかかわることができたことから、子ども一人一人に充実感をもたせることができたと考えます。	

(ウ) 【手立て3】(振り返って、互いのよさやかかわりのよさを認め合わせる場を設定する)

○ 本時の目標 (28/28)

自分や友達のよさを互いに認め合い、かかわることを通して伸びた自分のよさ(自信)を振り返ることができる。

学習活動と子どもの意識	教師の働き掛けと子どもの反応
1 振り返りのカードを記入し、自分の活動のよかったところや友達のよさをカードに書き互いに発表し合う。 2 気付いた自分のよさ、友達のよさを書き出す。 自分で計画ができるようになって、はずかしがりやだったけど、どうどうと話せるようになりました。 お話会の人や友達がいっぱい、アドバイスをくれた。はずかしさが少なくなってきた。 今日のもよおしの40分間、私たちはがんばりました。豆まき、くじ引きのグループでがんばりました。	子どもたちに、若楠やさしさキャラバン隊の目的をを振り返らせる。一人一人がかかわるために、これまでしてきたことを自分の中で、考えさせ、取り組んできたことのよさを認め合う場を設ける。 人とのかかわりの中で、自分の伸びを感じ取らせる。 C₂の感想:今まで、若楠やさしさキャラバン隊の学習で第1回目に三光幼稚園に行ってやさしさを伝えることができました。三光幼稚園に行く前にこんなあたちがやさしさを届けることができるのかと思いました。でも、こんなわたしたちでもやさしさを届けることができました。
【考察】 自分の伸びを見つめさせたり、互いによさを認め合わせたりする場を設けたことは、自分の生き方(自信)をとらえ直すことに有効であったことが分かる。	

(3) 手立てについての考察

地域とかかわる力を育てるために3つの手立てを仕組んで実践した1回目の活動と2回目の活動を比較する。相手を意識して計画を吟味する場、直接対象とかかわる場、振り返り互いのよさを認め合う場を通して地域（人）とかかわる力が高まったかどうかを以下に述べる。

ア 手立て1【相手を意識して計画を吟味する場】

相手を意識し計画を吟味する場を1回目、2回目設定した。図3に示すように、1回目の経験を生かし、2回目では、より具体的なイメージをもつことができた。それを自覚することで、相手意識をもちながら計画を吟味することができ、具体的な見通しをもたせることに役立ったと言える。

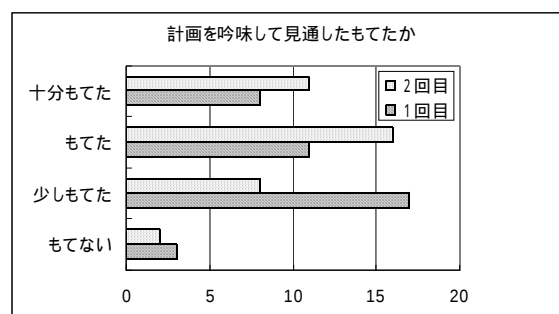


図3 計画を吟味する場での意識

イ 手立て2【一人一人が直接対象とかかわる場】

図4に示すように、活動計画を吟味して活動を焦点化させたことで、意欲的に対象とかかわることができ、満足感を十分感じることができたと言える。また、かかわる場を繰り返したことで、一人一人が活動のめあてをより具体化することができ、かかわる力を一人一人に身に付けるのに有効に働いたと考える。

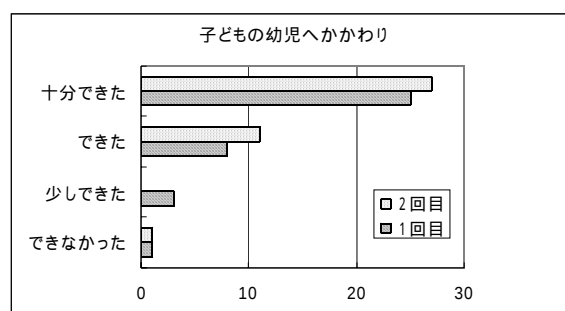


図4 手立て2での子どものかかわり

ウ 手立て3【振り返り、互いのよさを認め合う場】

2回目の訪問の後、振り返りカードを書かせる場を設定した。図5では、子どもが地域とかかわり、学びでの伸びを自分の言葉で書き表している。

「若楠ニコニコ子育てサークル」の活動を通じたかかわりの経験が「ゆうき」という言葉で表現され自己肯定感をもちたせることにつながった。総合的な時間のねらいの中に、自己の生き方を考えさせるとあるが、自分の伸びを見つめさせることで生き方に自信をもちたせることができたと考える。

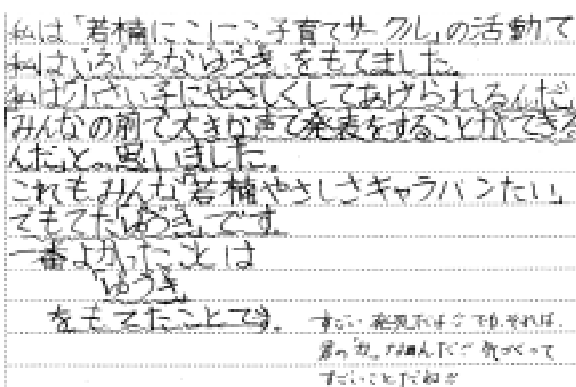


図5 振り返りで見つけた自己の伸び

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

地域とかかわる力を育てるために、3つの手立てを仕組んだことで、地域とかかわる具体的なイメージをもちたせることができた。また、交流を繰り返したことで高まりのある活動が見られ、一人一人に自己の伸びを自覚させることができた。

(2) 今後の課題

子ども一人一人のかかわりへの思いや願いが違うために、全体に一律な規準ではその子のよさが十分に見取れないことから、それぞれの子に寄り添う評価と指導の一体化についての研究を深めたい。

《引用文献》

- (1) 高浦 勝義編著 『総合学習の理論・実践・評価』 1998年 黎明書房 p.45